

# 施策評価シート（平成30年度実績評価）

## ◎ 施策の基本情報

総合計画 中期 プラン	政策No.	3-5	政策名	芸術文化の振興	政策の 目指す姿	地域の歴史や文化、先人に誇りを持ち、芸術文化に親しんでいます	施策 主管課	文化財課	施策主管 課長名	平野克則
	施策No.	4	施策名	民俗芸能の伝承	施策の 目指す姿	民俗芸能への理解が深まり、伝承活動を活発に行っています	関係課名			
	現状と課題	・市内には、ユネスコ無形文化遺産に登録された早池峰神楽をはじめとして、数多くの民俗芸能が各地域に伝承されていますが、少子高齢化による後継者不足により、民俗芸能の伝承が困難な団体もあります。								

## ◎ 前年度の評価の振り返り

### （前年度評価時の今後の方向性）

- ・地域に伝わる伝統芸能を学校で鑑賞する機会をつくり、後継者づくりのきっかけとする。また、民俗芸能に興味を持っている人や、現在活動している人を対象として行っている、笛等の講習会のPRに努める。
- ・用具等の活動に係る経費については、国や財団法人等が実施する用具の新調等に係る支援策を紹介すると共に、事業導入を支援する。また、コミュニティ会議にアンケート結果を紹介し、民俗芸能団体が求めている支援に理解をいただく。
- ・発表機会の創出については、郷土芸能鑑賞会等、各種発表会への出演団体数の増加を検討する。

### （反映状況）

- ・運動会や文化祭・学習発表会等の学校行事において地域の民俗芸能を取り入れている学校が17校（30校中）ある。笛の技術講習会開催に係る周知は、主催者である岩手県文化財愛護協会と共に花巻市郷土芸能保存協議会を通じて周知した。
- ・用具等に係る助成事業の紹介については、花巻市郷土芸能保存協議会を通じて紹介した。H30は1団体が用具（太鼓）を修理した。
- ・H29に実施した「コミュニティ会議における民俗芸能団体への支援状況等の調査」結果をコミュニティ会議に報告し、あわせて支援要請した。
- ・郷土芸能鑑賞会等の各種発表会への出演団体数は、前年対比1団体増（延22団体）とした。

## 1 施策の目指す姿の実現に向けた主な取組

### (1) 民俗芸能の伝承支援

- 民俗芸能の発表の場や伝承活動の場の確保
- ・ 郷土芸能鑑賞会、青少年郷土芸能フェスティバル、古民家活用郷土芸能鑑賞会、みちのく神楽大会、大迫郷土文化保存伝習館公演の開催
- 民俗芸能団体の活動状況の調査と活動状況に応じた支援
- ・ H29実施した「郷土芸能団体に対する活動状況のアンケート」の未回答団体に対し再調査を実施。1団体の用具（太鼓）補修にかかる補助金申請を支援。民俗芸能団体と文化財保護審議会委員との意見交換会を開催。
- 公演会情報等の市民へのPRの推進
- ・ 市広報紙・HPへの掲載、文化施設、振興センター等へのポスター掲示とチラシ配置、班回覧による周知

## 2 成果指標

成果指標名	成果指標設定の考え方 (なぜ、この指標で成果を測ることにしたのか)	成果指標の測定企画 (どのように実績を把握するのか)	単位	数値区分	H26	H27	H28	H29	H30	R1
					目標値	実績値	実績値	実績値	実績値	実績値
郷土芸能団体数	地域ぐるみで伝承・保存に努めることが重要であることより、地域で実際に郷土芸能伝承や保存活動している状況を表す指数	花巻市郷土芸能保存協議会、花巻地方神楽協会、花巻市文化団体協議会の加盟団体より把握する。	団体	目標値	96	96	96	96	96	96
				実績値	96	96	96	96	96	

## 3 成果指標の達成状況

達成度	達成状況に関する背景・要因
A	<p>■ 成果指標「郷土芸能団体数」・・・【達成度a】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保存会を中心とした保存に対する地域の取り組みや、伝統芸能の継承者による努力によって目標を達成した。</li> <li>・ 郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバル等が発表の場となり、あわせて、郷土芸能団体の交流の場ともなっており、それが伝承の意識付けにつながっている。</li> <li>・ 学校行事への民俗芸能団体の参加や高校の部活動（花巻農業高校 鹿踊り、大迫高校 神楽）への指導により、後継者の育成と確保につながっている。</li> </ul>

#### 4 施策を構成する事務事業一覧

番号	事務事業名 事業内容(活動実績)	担当課	施策への貢献度		成果
			対象 直結度	意図 直結度	
1-1	民俗芸能伝承支援事業 郷土芸能鑑賞会(9団体、700人)、青少年郷土芸能フェスティバル(9団体、1,000人)、古民家活用郷土芸能鑑賞会(3団体、280人)、大迫郷土文化保存伝習館公演(1団体、200人)の開催	文化財課	一致	直結	A
			A		
1-2	民俗芸能伝承支援事業 民俗芸能団体の活動状況アンケート未回答団体に対し再調査(未回答23団体、今回回答21団体)。民俗芸能団体と文化財保護審議会委員との意見交換会(8団体)	文化財課	一致	間接・補完	B
			B		
1-3	民俗芸能伝承支援事業 1団体の用具(太鼓)補修にかかる補助金申請の支援(1件)	文化財課	間接・少数	直結	B
			B		

#### 5 施策を構成する事務事業の検証

(①市民ニーズや市の関与の必要性が低下した事業、②投入コストのわりに成果が低い事業、③施策への貢献度の低い事業はないか)  
・なし

(施策の目標を達成するため、さらに成果の向上を図る事業はないか)

- ・こどもの頃から民俗芸能に触れる機会をつくるなど、伝承への動機づけが必要である。
- ・熱意のある指導者の存在と、伝承者の高いモチベーションの維持が必要である。そのためには、発表・公演の場を設けるとともに、後継者育成を支援する事業の充実を図る必要がある。

(新たに取り組むべき事業はないか)

・なし

#### 6 施策の総合的な評価

(課題)

- ・民俗芸能団体の多くが「後継者不足」と「構成員の高齢化」を課題としており、後継者づくりを民俗芸能団体と共に検討していく必要がある。
- ・伝承への意識づけと、練習するきっかけとなる「披露する場」をより多く創出する必要がある。

(今後の方向性)

- ・民俗芸能団体との意見交換会を開催し、後継者育成と確保のため各団体が取り組んでいることや考えていることの情報交換を行う。
- ・市教委が主催する郷土芸能鑑賞会や青少年郷土芸能フェスティバル等への出演団体数を増やすことを検討するほか、出演依頼する際は、出演実績の少ない団体の掘り起こしに努める。